

こんなこと
やってるよ!

活 動 紹 介

NPO法人信州いわなの学校 日本の屋根にはイワナが似合う

深山の森の中、流れというにはあまりにも頼りないほどの細流にでさえ、彼らはひっそりと逞しく、生きている。その姿は全てを知り尽くした仙人のようにも見える。北の大地には彼らの仲間でも大海原に降海するものもいることを考えれば、果たして彼らが望むべくして幽閉された世界に身を寄せることを選んだのかは定かではない。ただ確かに彼らはそうして長いイワナの歴史を刻んできたはずだ…。

さてさて、だからといって私たち素人軍団がよってたかってイワナのことを知ろうとしたって所詮無理な話です。イワナは謎めています。だから、いっそう魅力的です。長野県を代表する魚ってなんでしょうねえ。コイも確かに捨てがたいですが、アルプスという響き、日本の屋根にはやっぱりイワナが似合うようなそんな気がして…。それでNPO法人信州いわなの学校です。

イワナは魚のくせになかなか個性的です。なので、私たちもイワナに負けないように個性的に自由に楽しむことを心がけて活動しています。時には川の中に顔を突っ込み、サカナさんとらめっこ(川キャンプ)。時には釣ったサカナとお医者さんごっこ(胃内容物調査、生息密度調査)。少しだけ、サカナさんたちのお家をきれいにしてお手伝い(アルミ缶回収)や、さびしそうなサカナさんたちに友人紹介(放流事業、発眼卵放流)なんかもしています。そのほか、ゲンゴロウやメダカ、ホトケドジョウなど、県内でも数の少

なくなった生き物たちの土地家屋調査みたいなこともやっています。

あのイワナの愛くるしい眼をいつまでも見られるように…。豊かな流れが身近にあつて、もつともつ私たち人間が昔のように川に近づいて…。

そんな風景を夢見ながらゆっくりあわてず、楽しみながら活動を続けています。

(事務局長 古川茂紀)



連絡先

NPO法人信州いわなの学校
上田市武石沖五日町556
URL <http://www.iwana.jp>

こんな本みつけた!

読 書 案 内

『親が子供に伝えたい「環境」の授業—命はつながっている』

津川雅彦・小菅正夫(角川書店、175ページ、1600円+税、2009年1月発行)

動物が本来もっている特徴的な能力を存分に見せる「行動展示」で有名な北海道旭川市の旭山動物園。数年前に訪れたとき、子どもたちがゴマファザラシの円柱型水槽の前からまったく離れようとせず、困り果てたことを思い出す。本書は、園長小菅正夫と、その旭山動物園を撮影した映画の監督でもある俳優津川雅彦との対談。

津川は個人主義の蔓延が環境問題を考える上でネックになっているとし、学校教育や現代社会を痛烈に批判する。それに対し小菅は動物の視点から終始淡々と語っている。小菅はサルやチンパンジーを間近で見えてきた経験から確信し、彼らを子育ての手本にしているとのこと。類人猿の子育ての基本は子どもを抱っこすること。3歳までは徹底的に抱っこして愛情を注ぐべきだと。ただ残念なことに、父親はいくら母親と同じことをやっても効果がないらしい。とくに子どもが小さい頃は母親の存在がすべてだそう。

いろんな動物を好きになり、そんな動物たちがいる生態

系を尊重する。そうすれば環境は守れる。なので、母親は絶対に子どもの前で虫や動物を嫌がってはいけない。子どもに先入観を与えてしまうからで、チンパンジーも同じように母親の行動から学んでいるらしい。旭山動物園ではイキイキとした動物を見せることで人間が持っている動物観、偏見を少しでも修正し、子どもを動物嫌いにさせない環境づくりを目指す。

2人の著者に共通する考えは、環境にとって大切なものは「思いやり」であり、「命の平等」であるということ。相手への「思いやり」こそ平和と幸せのキーワードであり、地球にすむすべての命に対して平等にすることで、最終的には地球環境も守れると。動物園は地球を救う!

(紹介者 畑中健一郎)

